

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3137101号
(U3137101)

(45) 発行日 平成19年11月15日(2007.11.15)

(24) 登録日 平成19年10月24日(2007.10.24)

(51) Int.Cl.

A 6 1 B 17/12 (2006.01)

F I

A 6 1 B 17/12

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2007-5965 (U2007-5965)

(22) 出願日 平成19年7月5日(2007.7.5)

(73) 実用新案権者 507261009

久保田 仁

愛知県半田市青山6丁目19番の16

(72) 考案者 久保田 仁

愛知県半田市青山6丁目19番の16

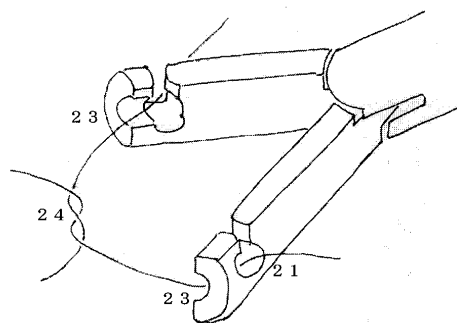
(54) 【考案の名称】 内視鏡下手術に使用する体外結紮鉗子

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】内視鏡下手術時に体内の組織を体外結紮鉗子で糸を送って結紮する時、常に糸に緊張をかけていなくても、糸が鉗子から外れにくい体外結紮鉗子を提供する。その結果として、結紮する組織の近くまで糸を誘導した後も、結紮位置を微調整することが可能となる。

【解決手段】鉗子の先端の形状を工夫し、鉗子の先端の開く部分に横穴21を開け、その穴が先端の側面22と交通する構造にした。また鉗子の最先端には縦に溝23を掘り、鉗子を閉じた状態でも糸24を通して、把持できるようにした。

【選択図】図4



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

内視鏡下手術時に使用する体外結紮鉗子の最先端に縦に溝を掘り、鉗子を閉じた状態でも糸をその溝に通せて、把持できるようにし、さらに先端の左右に開く部分には横穴を開け、その穴が先端の側面と交通するようにし、糸をその横穴に通して左右に出せる構造の体外結紮鉗子。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、医学上の内視鏡下手術を行う場合に、体外結紮法で体内の組織を結紮鉗子を使用して結紮するときに使用する体外結紮鉗子に関するものである。 10

【背景技術】**【0002】**

体腔鏡下手術に体内の組織を糸で結紮するための鉗子としては、ギャザリー結紮鉗子が一般的に使用されている。この鉗子の先端には溝があり、その溝に糸を通し体外から体内の目的の場所まで誘導し、組織を結紮していた。

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

ギャザリー結紮鉗子を使用して結紮を行なう場合、溝に通した糸は鉗子から外れやすいため常に緊張をかけていなければいけなかった。このため、結紮される組織は引っ張られた状態になり、組織を損傷する可能性があった。また組織に緊張がかかっているため、結紮位置を微調整することは困難であった。 20

【課題を解決するための手段】**【0004】**

以上の課題を解決すべく、鉗子の先端の形状を工夫した。本考案を図 1 から図 4 に基づいて説明する。鉗子の先端の開く部分に横穴 21 を開け、その穴が先端の側面 22 と交通する構造にした。また鉗子の最先端には縦に溝 23 を掘り、鉗子を閉じた状態でも糸 24 を通せて、把持できるようにした。

【実施例】**【0005】**

本鉗子を使用して体外結紮を行なう手順を示す。まず糸を体内の結紮する組織に巻きつける。次に糸 24 の両端を体外に出し、結び目を作る。

【0006】

[図 4]のごとく、この結び目の手前の 2 本の糸 24 の間に鉗子を挿入し、鉗子の先端を開き、糸 24 に押し付けながら手前に引くと、糸 24 は鉗子の側面の溝 22 から鉗子に空けた横穴 21 に入る。次に鉗子を閉じ鉗子の最先端に空けてある縦溝 23 に結び目の向こう側の糸 24 を挟む。この状態で結び目を体内に送り込み、結紮する組織の手前まで送る。この時糸 24 は鉗子の閉じた先端の隙間の縦溝 23 の間にあり、緊張をかけなくても鉗子から外れる心配がない。 40

【0007】

また結紮する組織の近くに結び目を送った状態でも、糸に緊張をかけておく必要がないため、結紮する組織と糸は軽く触れている状態のため、結紮する位置を微調整することが可能である。

【考案の効果】**【0008】**

この体外結紮鉗子を使用して結び目を体内に送り込むとき、鉗子を閉じた状態で、糸は鉗子の最先端の縦溝 23 から横穴 21 に入り、横穴 21 から左右に出るため、鉗子を閉じておけば糸 24 に緊張をかけていなくても鉗子から外れる心配がない。また結紮する組織の近くに結び目を送った後も、糸に緊張をかけておく必要がなく、結紮する組織と糸は軽 50

く触れている状態を保てる。このため、結紮する位置を左右にずらし、微調整することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】体外結紮鉗子全体を横から見た図である。

【図 2】体外結紮鉗子の先端の拡大図である。

【図 3】体外結紮鉗子の先端を斜めから見た図である。

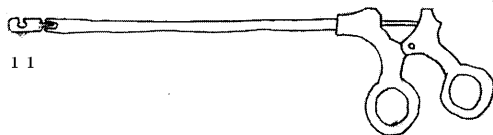
【図 4】体外結紮鉗子の先端を開き、糸を横穴に通した図である。

【符号の説明】

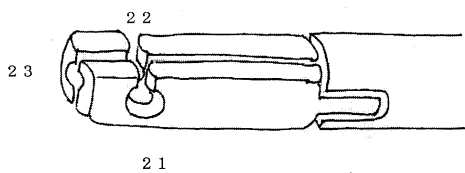
- 1 1 先端
- 2 1 先端の左右に開く部分の横穴
- 2 2 先端の左右に開く部分の横穴の側面への開口部
- 2 3 先端の左右に開く部分の縦溝
- 2 4 糸

10

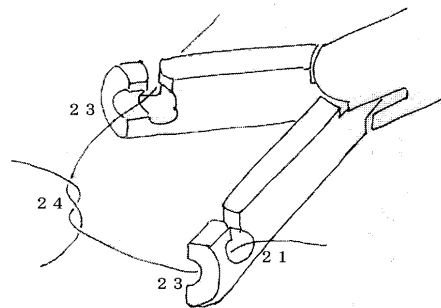
【図 1】



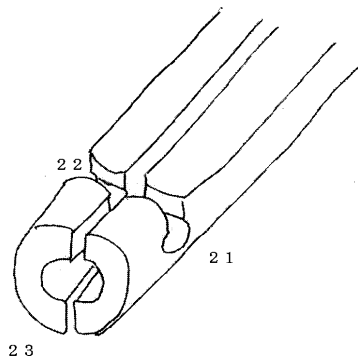
【図 2】



【図 4】



【図 3】



专利名称(译)	体外结扎钳用于内窥镜手术		
公开(公告)号	JP3137101U	公开(公告)日	2007-11-15
申请号	JP2007005965U	申请日	2007-07-05
[标]申请(专利权)人(译)	久保田仁志		
申请(专利权)人(译)	久保田仁志		
当前申请(专利权)人(译)	久保田仁志		
[标]发明人	久保田仁		
发明人	久保田 仁		
IPC分类号	A61B17/12		
FI分类号	A61B17/12		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

(修正有)当[问题]内窥镜手术在连接时组织的体内体外连接镊子发送线程，总是就算你不把应变的线程，线程是提供体外结扎钳子很难从镊子偏离。其结果是，即使在以被连接纱线靠近所述组织的诱导，能够精细地调整结扎位置。一个设计钳子的前端的形状，在部分打开的横向孔21，打开钳子的前端，该孔是在侧22和流量的前端的结构。国家的最先进的镊子还垂直挖掘槽23，并顺利通过，螺纹24也是在镊子的封闭状态，是能够把握。4技术领域

